

# 山佐交流センターだより

2019年（令和元年）8月発行号

発行日 令和元年8月20日

発行 山佐交流センター TEL(FAX) 35-0129

7月末の上山佐人口＝ 371人（対前月比：△6人）

上山佐を  
みんなで  
元気にして  
いこう！



上山佐のイメージキャラクター「てんばごん」

## 山佐の夏の風物詩、今年もにぎわう

7月27日に、山佐ダム体験交流施設管理組合（会長：福間勝巳さん）主催による山佐ダムキャンプ場祭が開催されました。

約400人の参加者は、お馴染みの七輪を囲んだ焼肉やステージイベントとして行われたカラオケ大会で盛り上がっていました。

フィナーレは花火大会、予算の関係で打ち上げ数は少ないのですが、「近くで見ることができる花火」ということで、人気も高いと聞いています。



山佐ダム完成後に始まって、今や夏の風物詩になったこのお祭り、主催される管理組合の皆さんの頑張りに支えられ、今年で第38回を迎えました。40回～50回と続くように願って花火を見つめた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

（写真は会場の様子と、間近で打ち上げられる花火）



（写真は会場の様子と、間近で打ち上げられる花火）

## 台風直撃 やむなく中止に

8月15日に予定していた盆踊り大会、台風10号直撃のため残念ながら中止しました。結果的に雨風とも大したことは無かったのですが、安全を考慮しての中止でした。この判断にご理解をお願いします。

昨年のもも盆踊り大会も台風により中止となりました。気象庁発表の台風上陸数について、平成21年から平成25年までの5年間での平均が年2つだったのに対し、それ

以降昨年までの5年間では年4.6と、倍以上に増えていきます。今後も台風が頻繁に来ることが予想されます。普段からの防災への備えを心がけたいものです。

なお盆踊り大会の会場に飾る行灯の絵を地域の皆さんに描いてもらっていました。その写真を掲載し紹介することでお披露目に代えさせていただきます。実物は交流センターでご覧ください。



## 今年の文化祭、内容検討始まる

今年の文化祭は10月20日に開催予定ですが、既に2回の実行委員会が開催され内容の検討が行われています。追って各自治会や各種団体そして個人的なステージ出演や出店、作品展示などのご案内をする予定です。今の内から計画を練っていたければ幸いです。



（写真は昨年の下明自治会「しもみよんず」のダンスステージ）

## 人口減少問題を考える ～出前講座に出かけました～

以前から「人口減少問題についての話を聞いてみたい、という団体があれば説明に行かせてください。」と呼びかけていたが、上口ミニサロンから声を掛けてもらったので、先般お話しをしに行ってきました。上山佐のこれまでの人口推移やこれからの推計予測、そして「自分たちに何ができるのか？」という内容でお話ししましたが、上口地区の栄谷には遠くから移り住まれた的川さんご夫婦がいらっしゃいます。



平成25年に移住されその後結婚、お二人のお子さんも産まれました。今年の春、的川邸の茅葺き屋根の葺き替え工事が行われましたが、ミニサロンではそのことも紹介し写真を見てもらったので、この紙面でも同じ写真を掲載します。

フェイブックなどで「茅葺きワークショップ」として葺き替え作業の参加者を呼びかけ、集まった人も含めて作業が行われました。

こんな山奥だけど若い夫婦と子どもたちが生き生きと暮らしている上山佐、まんざらでもない地域だと思いませんか？



地域行事・交流センター行事などの予定	
9月	
1日	
2月	健康体操
3火	
4水	てんばこどもクラブ
5木	健康体操、カラオケサークル、てんばこどもクラブ
6金	てんばこどもクラブ
7土	
8日	
9月	健康体操
10火	
11水	てんばこどもクラブ
12木	健康体操、てんばこどもクラブ
13金	てんばこどもクラブ
14土	
15日	上山佐縁日
16月	
17火	
18水	クロリティ・スカットボール、てんばこどもクラブ
19木	健康体操、カラオケサークル、てんばこどもクラブ
20金	てんばこどもクラブ
21土	
22日	
23月	
24火	
25水	てんばこどもクラブ
26木	健康体操
27金	てんばこどもクラブ
28土	
29日	
30月	健康体操

（予定は変更になることもあります）

【お礼】 上口の小林浩様から、故小林吉枝様の香典返しのご寄付をいただきました。誠にありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

【編集後記】 気のせいかもしれませんが今年も雑草の背丈が伸びるのが早いように感じます。たったこの前草刈をした場所がまた草だらけになりまた草刈・・・。

数年前、上山佐の地域ビジョン策定を記念した講演会で島根大学名誉教授の有馬毅一郎先生は、実家の旧佐田町での草との闘いに関連し「草刈には何の生産性もない、自分の土地でもない道路脇の草刈もすることになるが、そうしたことで自然の偉大さを実感するし、公共性も身に付く。」とお話されました。

不便な地域に住み、草刈や雪かきなど生産性の無い作業に追われる生活。でも自然と共存し公共性を重んじる生活は、ある意味崇高な生き方だと言えるのではないのでしょうか？